

株式会社ビー・エム・エル

2022年度第2四半期 決算説明会

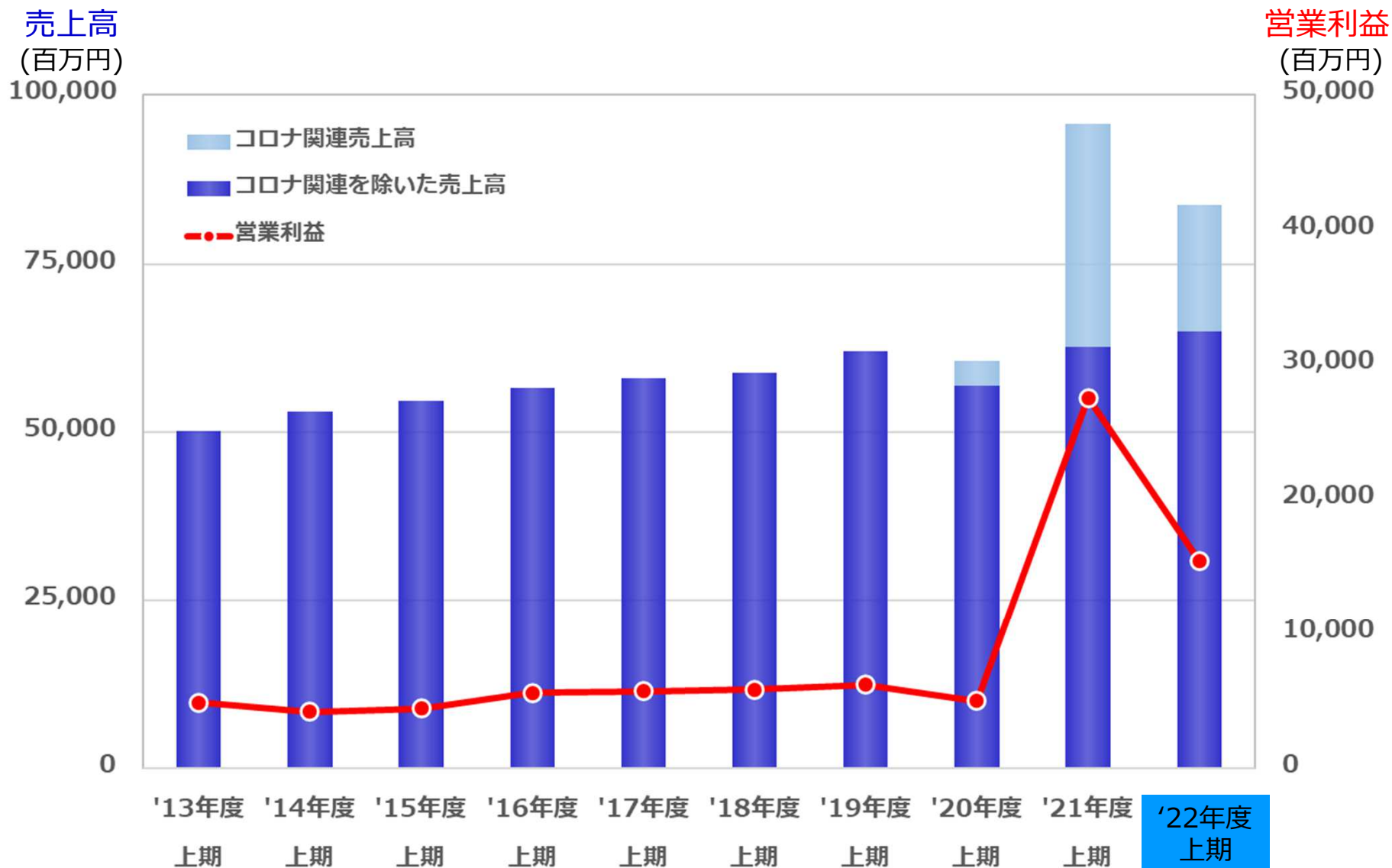
2022年11月11日

代表取締役社長

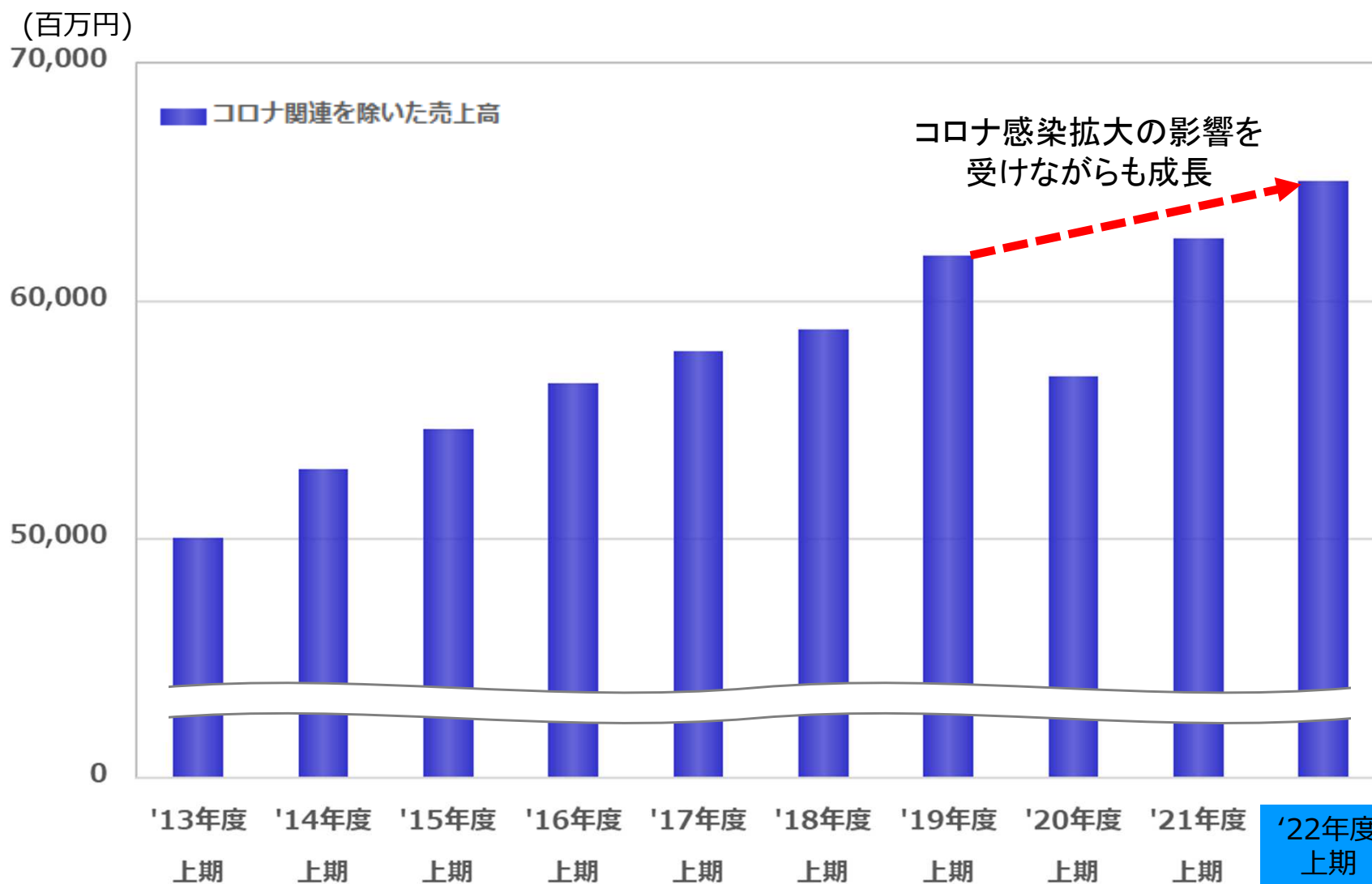
近藤 健介

2022年度第2四半期決算業績概要

【 コロナ関連検査の減少に伴い減収 】



【 コロナ関連検査を除いた売上高はコロナ禍前（'19年度）を上回る 】

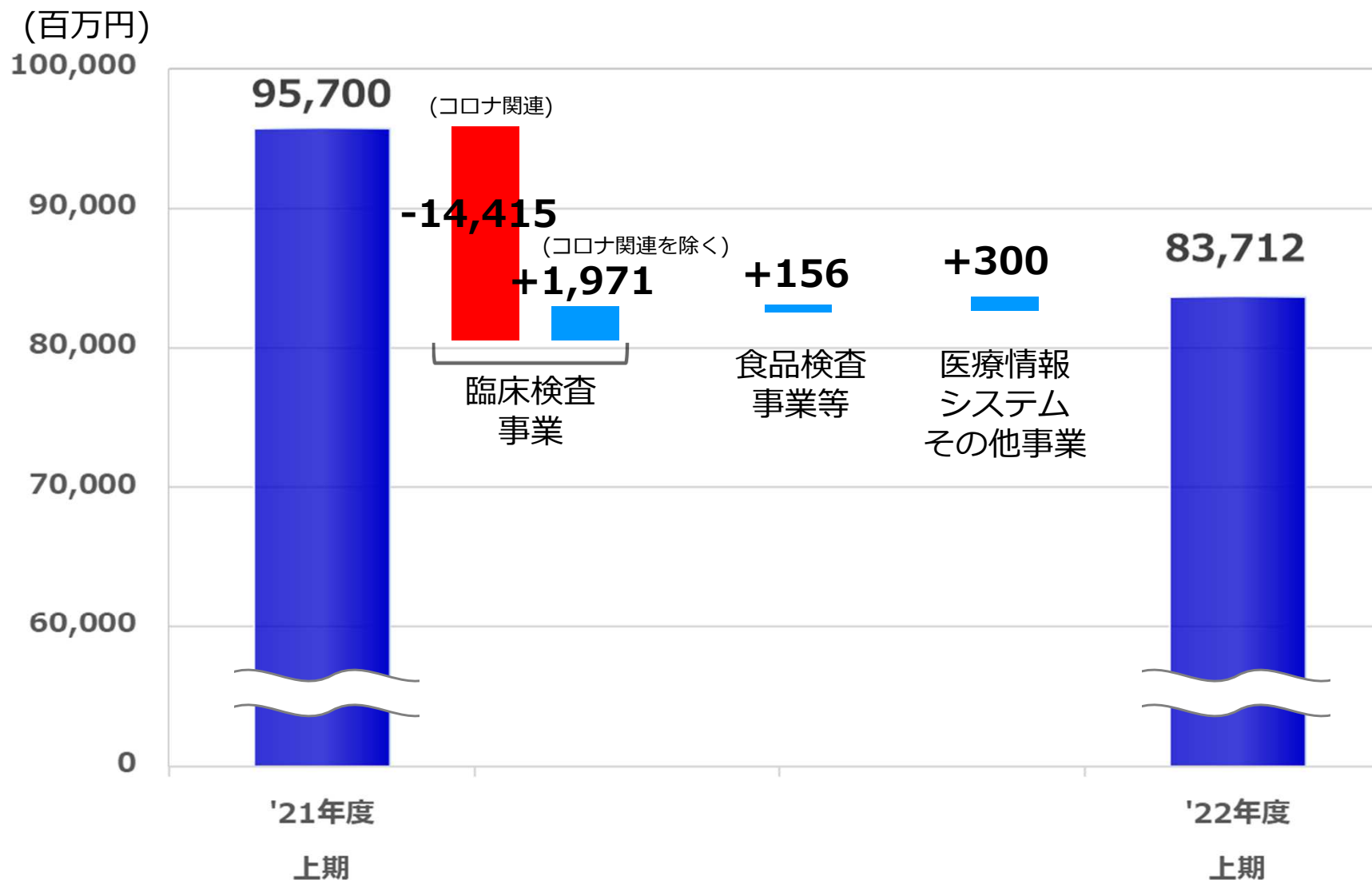


前年度業績比較表

(百万円)

	'21年度 上期	'22年度 上期	増減額	増減率
売上高	95,700	83,712	-11,987	-12.5%
検査事業	92,729	80,441	-12,287	-13.3%
臨床検査	90,695	78,251	-12,444	-13.7%
食品検査事業	2,033	2,190	156	7.7%
医療情報システム	2,231	2,536	304	13.7%
その他事業	739	735	-4	-0.6%
営業利益	27,525	15,448	-12,077	-43.9%
経常利益	28,433	15,572	-12,860	-45.2%
親会社株主に帰属 する当期純利益	18,761	10,332	-8,428	-44.9%

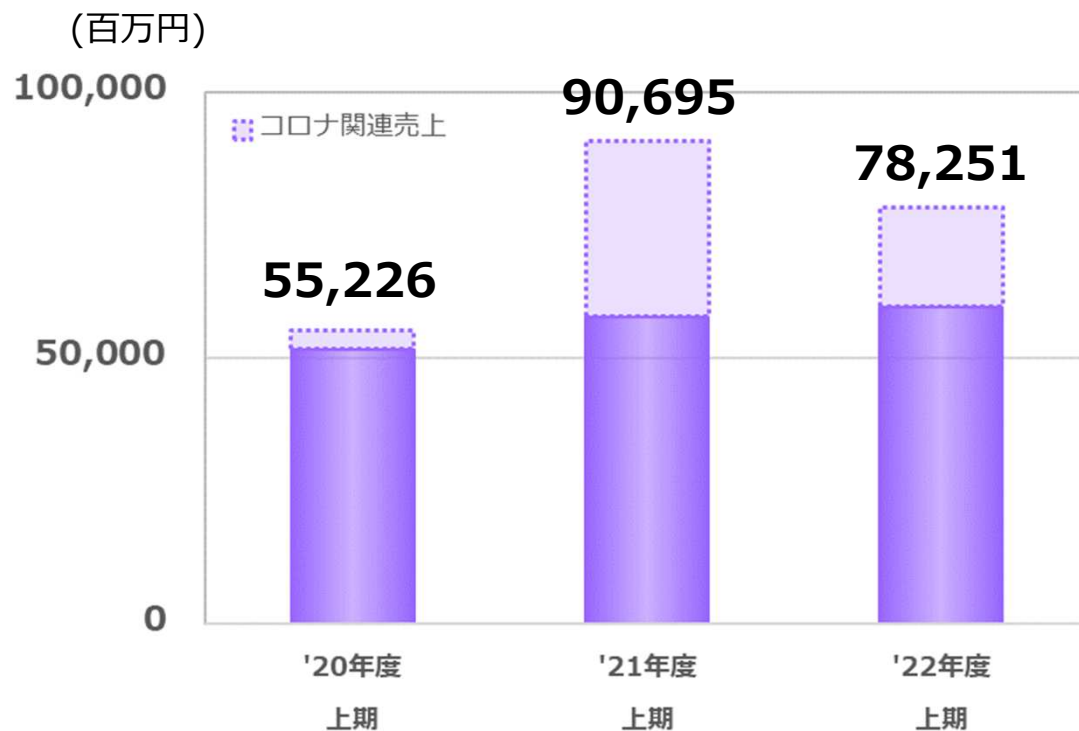
売上高 前期比 119億87百万円 (12.5%) 減収



営業利益 前期比 120億77百万円 (43.9%) 減益



売上高 782億51百万円
 前期比 124億44百万円 (13.7%) 減収

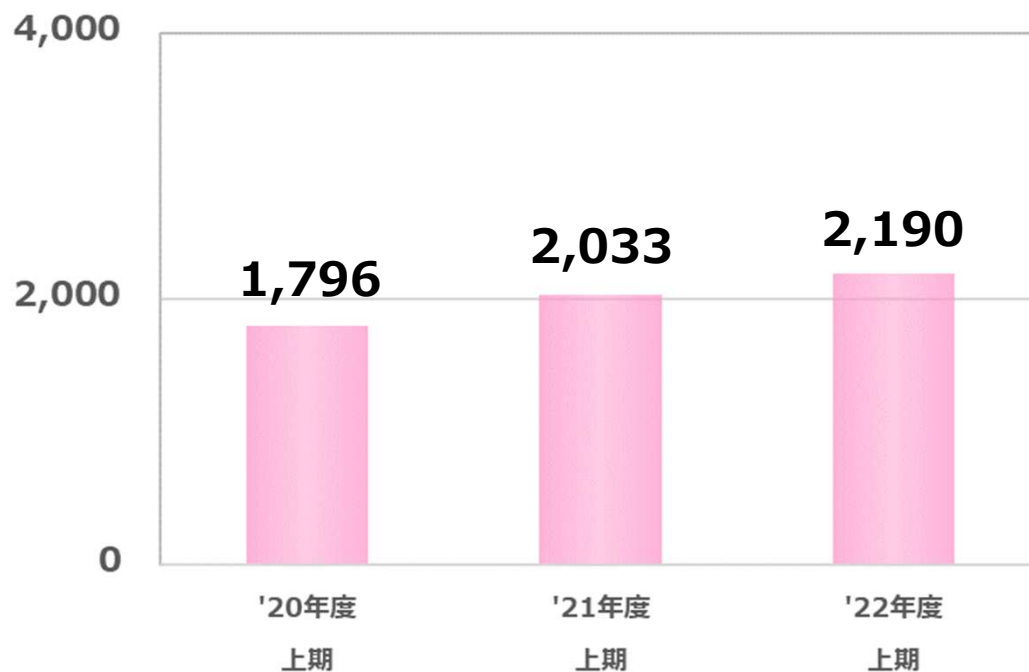


主なトピック

- ✓ コロナ関連検査
 - ・ PCR 検査
 実施件数 -3.2%
 保険点数引下げ
 ('22年7月～ 700点)
- ✓ 新規獲得・既存検査
 - ・ コロナ拡大(第7波)の影響で
 厳しい経営環境ながら増加
- ✓ 価格変動
 - ・ -0.76%の下落 (コロナ関連検査除く)

売上高 21億90百万円
前期比 1億56百万円 (7.7%) 増収

(百万円)



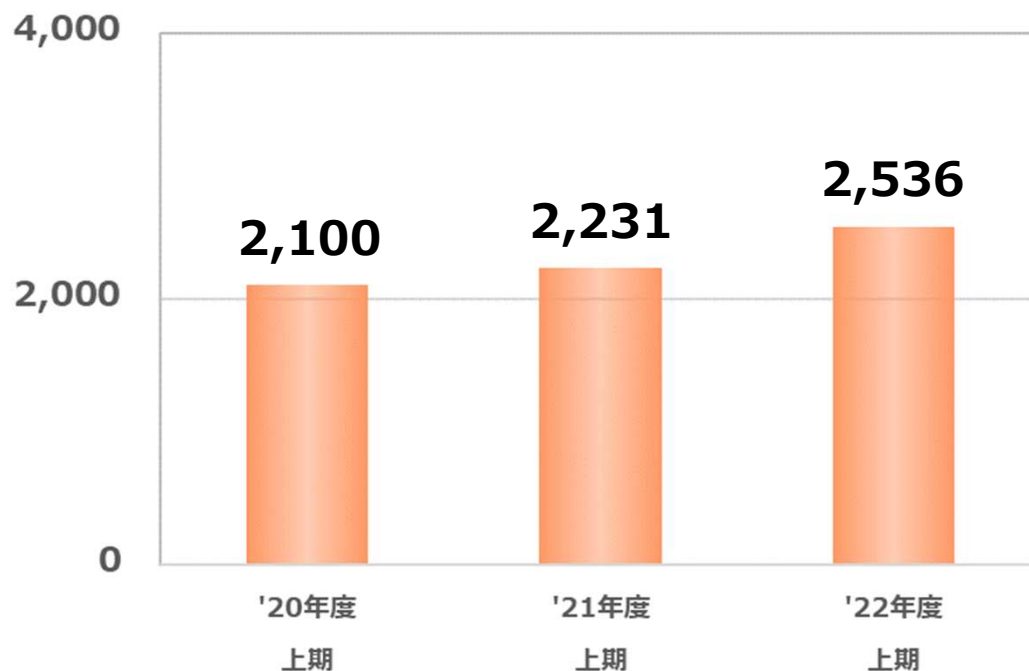
主なトピック

- ✓ コンサルティング事業
 - ・ コロナ禍前の水準には戻っていないものの回復傾向は継続

医療情報システム事業(電子カルテ)の概要

売上高 25億36百万円
前期比 3億4百万円 (13.7%) 増収

(百万円)



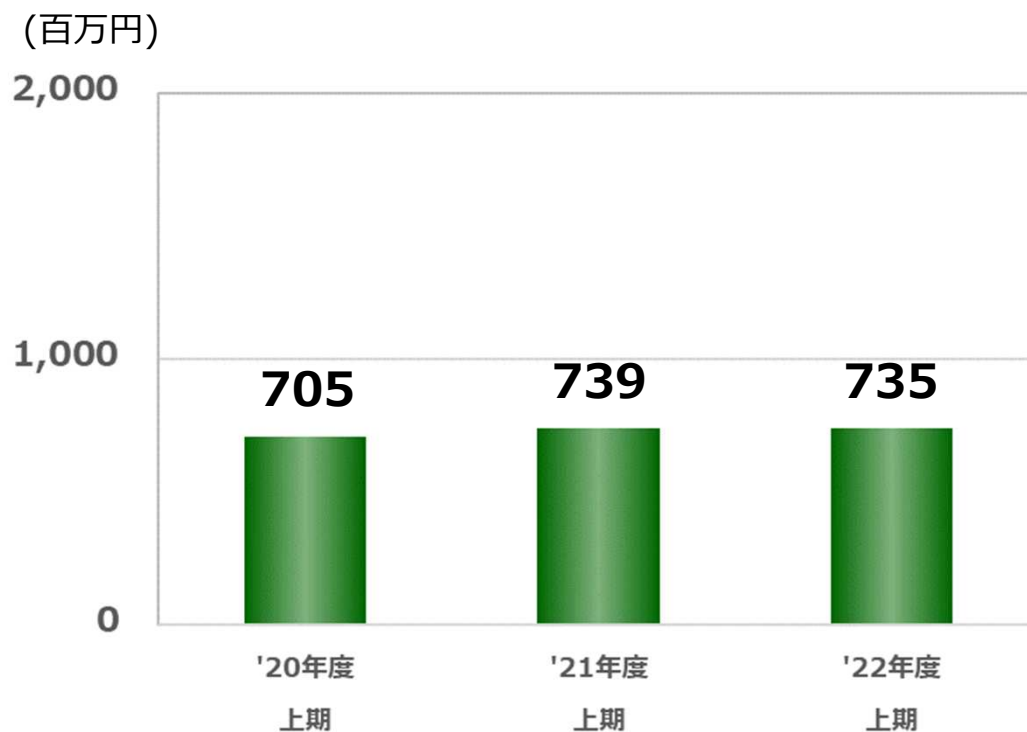
主なトピック

- ✓ 新規販売
 - ・ Qualis Cloud販売開始に伴い販売台数は前年同期比 42%増加
- ✓ リプレイス
 - ・ オンプレミスからの切替需要に対応
- ✓ 増設
 - ・ 前年に引き続きオンライン資格確認の増設が好調に推移
- ✓ 保守
 - ・ 設置施設数の増加に伴い堅調に推移

その他事業の概要

売上高 7億35百万円
前期比 4百万円 (0.6%) 減収

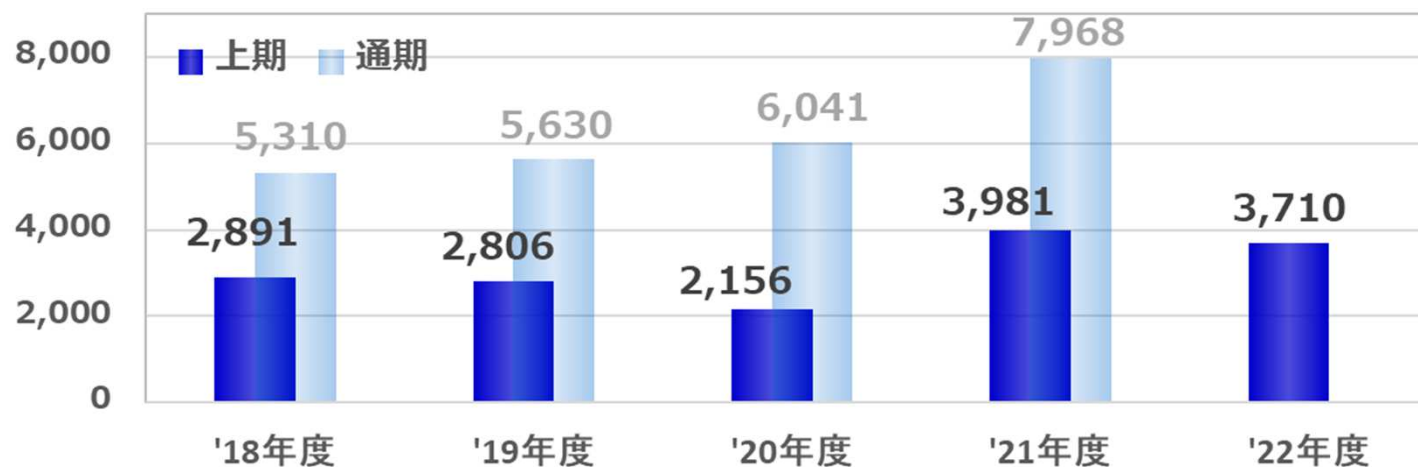
主なトピック



- ✓ 調剤薬局事業
・薬価引下げ

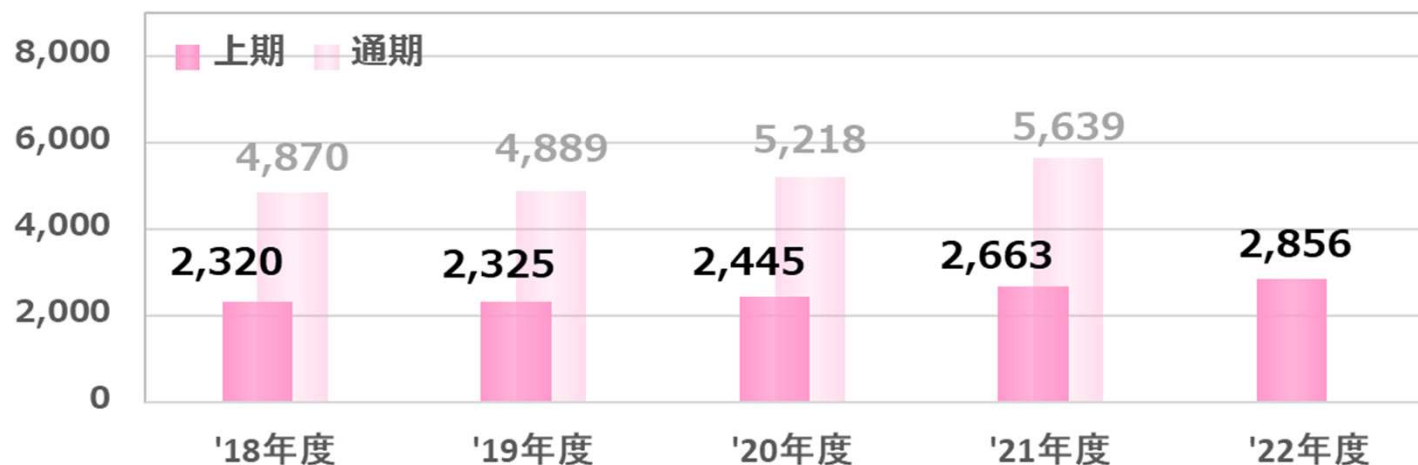
設備投資

(百万円)



減価償却費

(百万円)



キャッシュフローの概要

(百万円)

	'21年度 上期	'22年度 上期	増減額
営業活動によるキャッシュ・フロー	21,461	6,431	-15,030
投資活動によるキャッシュ・フロー	-3,949	-3,144	804
財務活動によるキャッシュ・フロー	-2,857	-4,302	-1,445
現金および現金同等物の期末残高	74,537	87,343	12,806

主な増減 の内容

■ 営業活動によるキャッシュ・フロー

税金等調整前当期純利益 : -12,606

法人税等の支払額 : -6,757

■ 投資活動によるキャッシュ・フロー

有形固定資産の取得による支出 : +638

無形固定資産の取得による支出 : -259

■ 財務活動によるキャッシュ・フロー

配当金の支払額 : -1,361

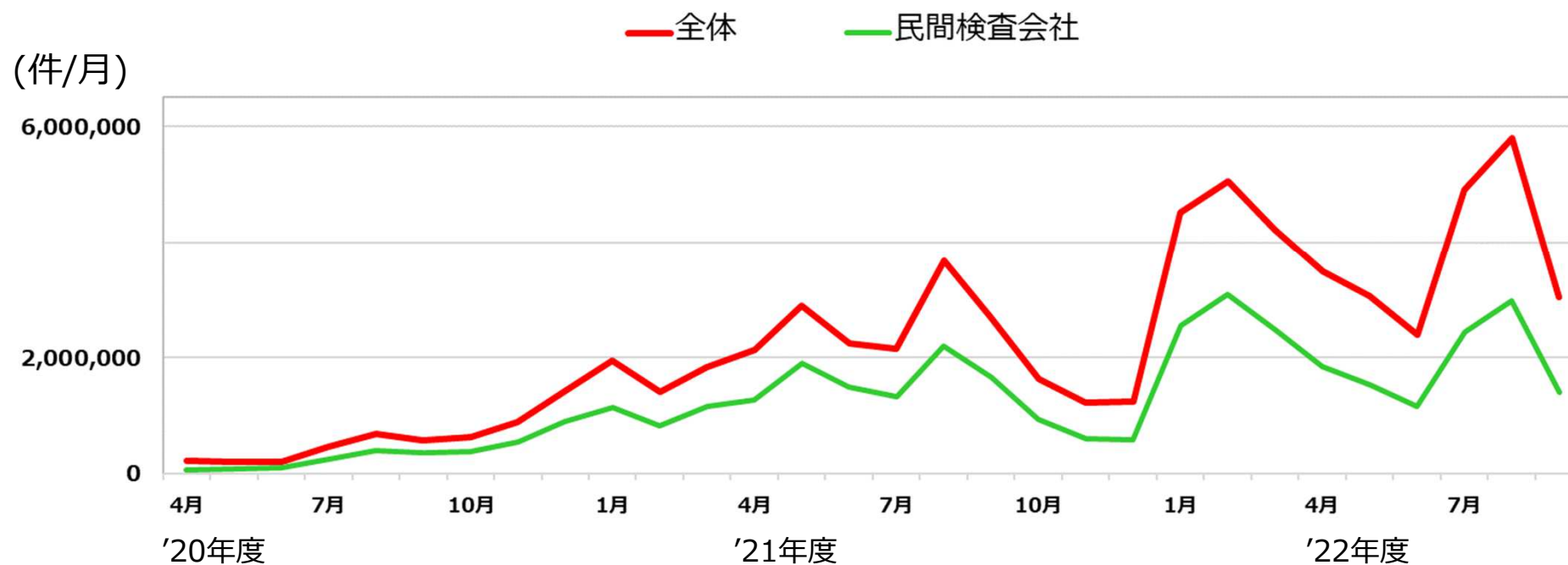
コロナ関連検査の推移

コロナ関連検査の推移

✓ 臨床検査全体のPCR検査 (自費検査を除く)のうち
民間検査会社の検査実施数 ('20年4月~'22年9月)

◇ 民間検査会社 (主に臨床検査) の実施比率

- ・ '21年4月~'22年3月('21年度通期) 約59%
- ・ '22年4月~'22年9月('22年度上期) 約50%



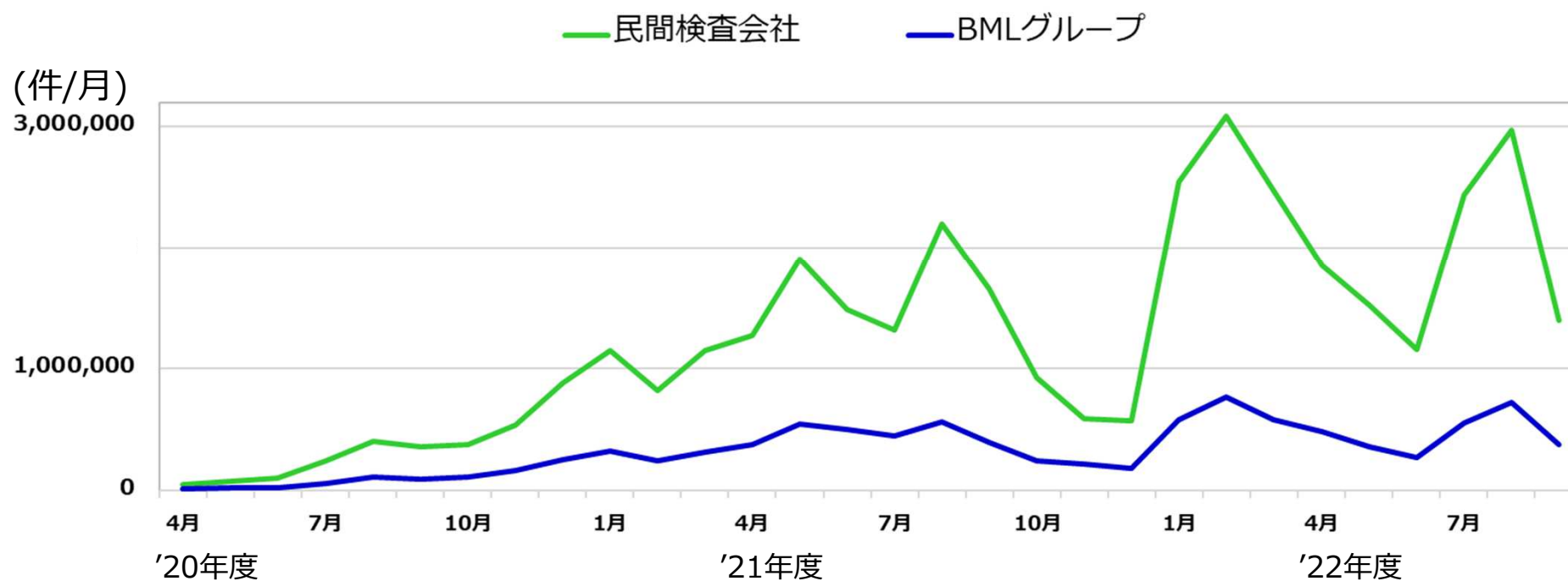
※ 厚生労働省のPCR検査実施状況をもとに当社作成

コロナ関連検査の推移

✓ 民間検査会社のPCR検査 (自費検査を除く)のうち
BMLグループの実施数 ('20年4月~'22年9月)

◇ BMLグループの実施比率

- ・ '21年4月~'22年3月('21年度通期) 約27%
- ・ '22年4月~'22年9月('22年度上期) 約24%

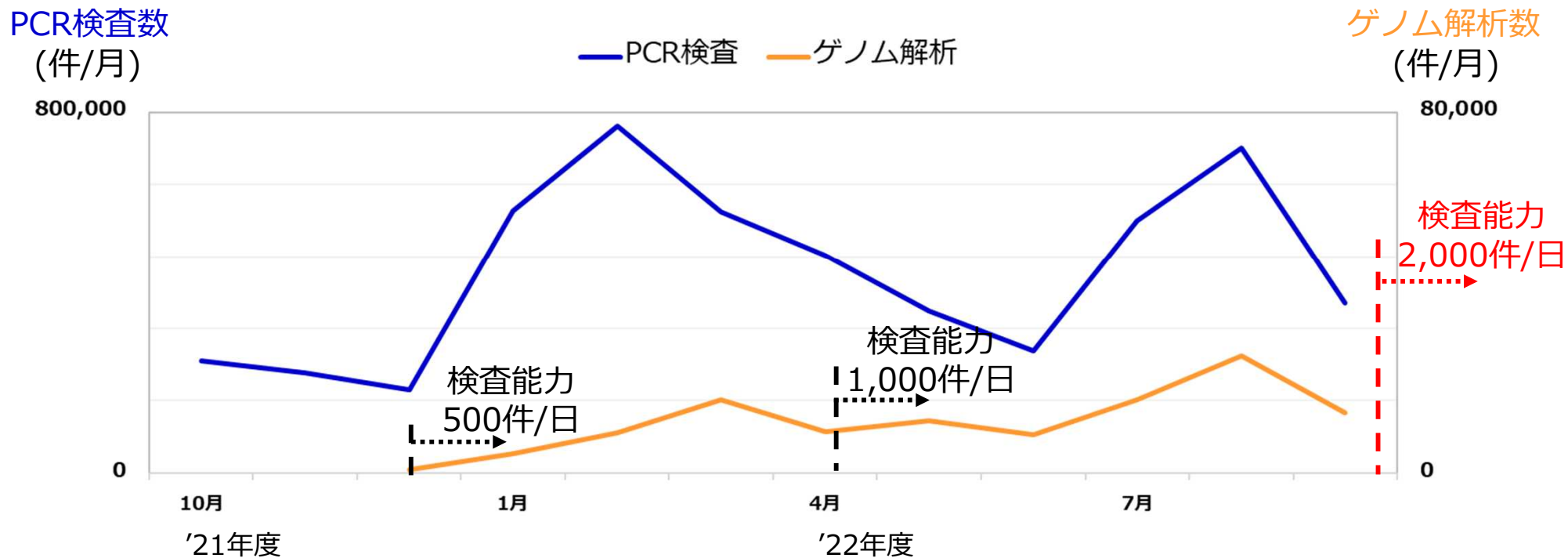


※ 厚生労働省のPCR検査実施状況をもとに当社作成

コロナ関連検査の推移

✓ BMLグループのPCR検査とゲノム解析の実施数（'21年10月～'22年9月）

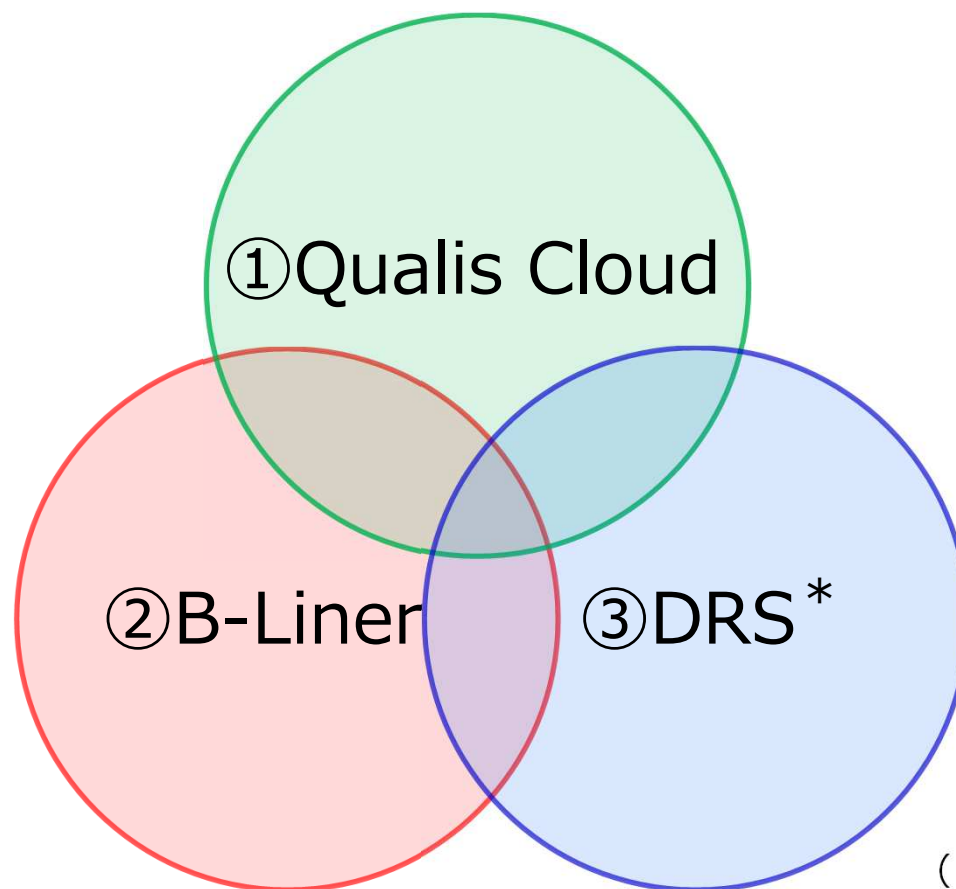
- ◇ リスクの高い変異株の把握がコロナの流行を予測するのに重要
- ◇ 社会的要請に応じゲノム解析の検査能力を段階的に拡充
- ◇ '22年11月より、検査能力 2,000件/日



デジタルトランスフォーメーション(DX) への取り組み

- ① Qualis Cloud
- ② B-Liner
- ③ DRS (Digital Reporting System)

- ✓ BMLのDXは、以下の3つのサービスにより、「顧客体験価値向上」 + 「業務効率化実現」を目指す



(* Digital Reporting System)



【 '22年4月1日 販売開始 】

(スマートクライアント型採用)

BMLのクラウド型電子カルテ 「クオリスクラウド」

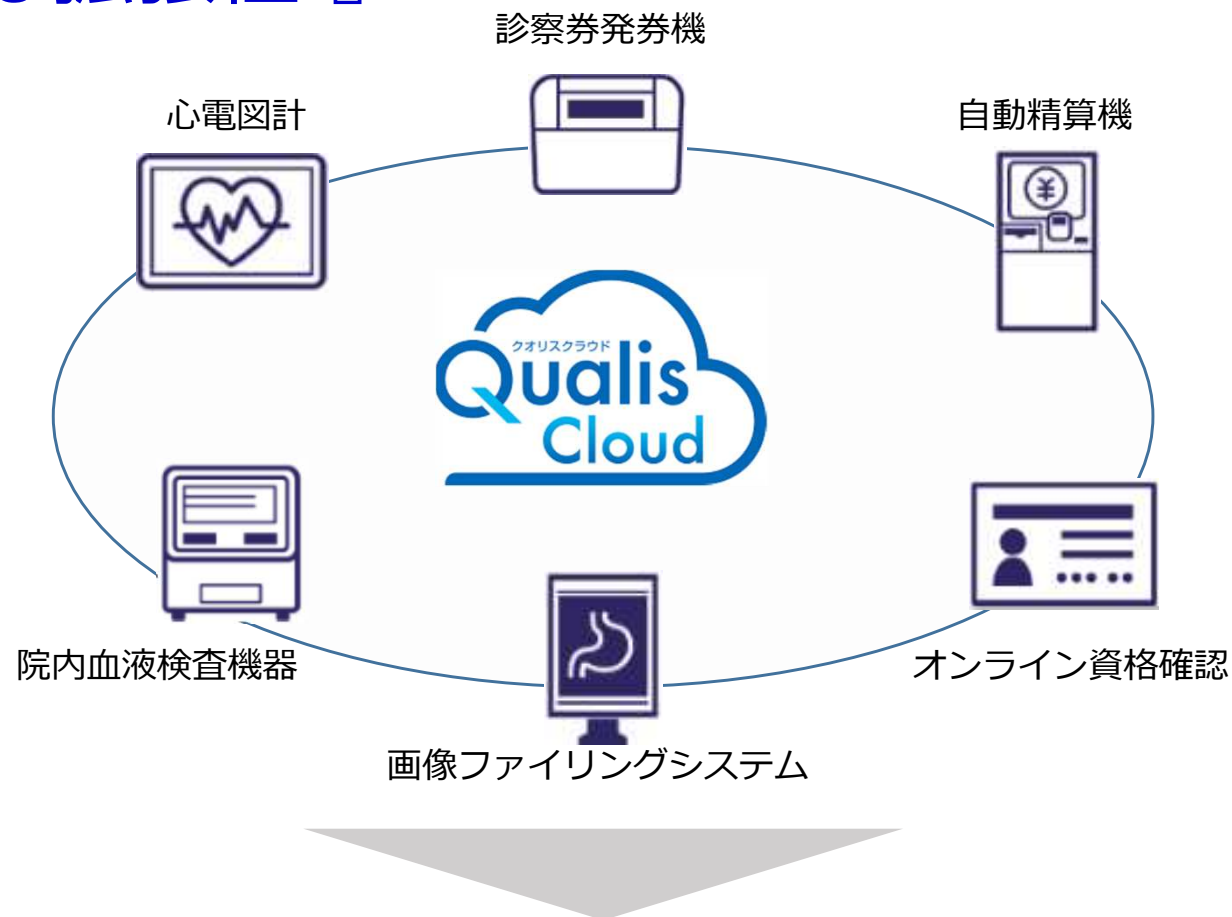
つながる
～他社連動～

広がる
～機能拡張～

快適
～多機能～

コンセプト

『 多彩な拡張性 』



小規模から大規模のクリニック・診療所まで幅広くカバー

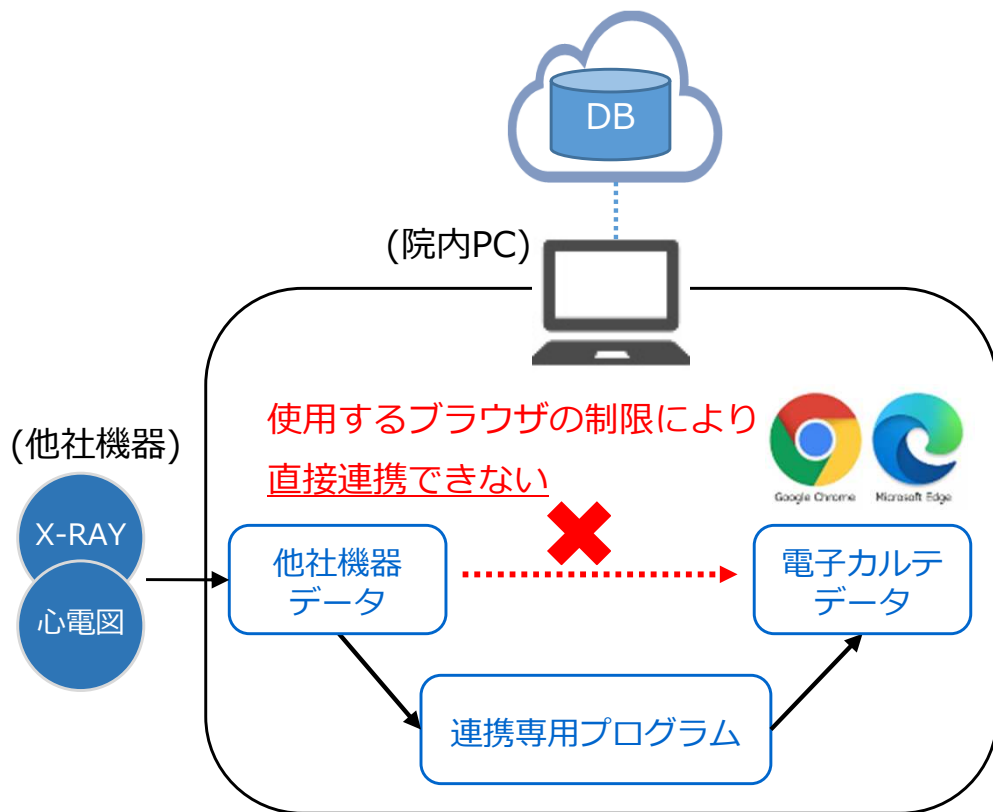
DX への取り組み ① Qualis Cloud



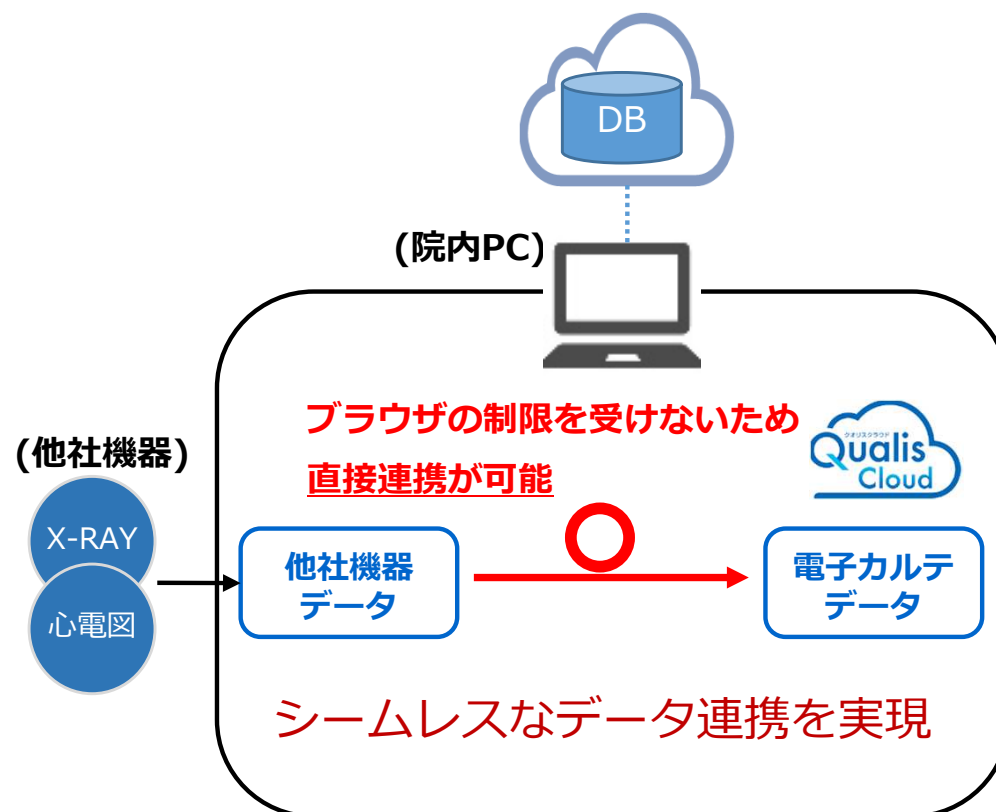
✓ スマートクライアント型

◇ 「ブラウザ型」ではなく、「スマートクライアント型」を採用

「ブラウザ型」のイメージ



「スマートクライアント型」のイメージ



✓ 電子カルテ比較表

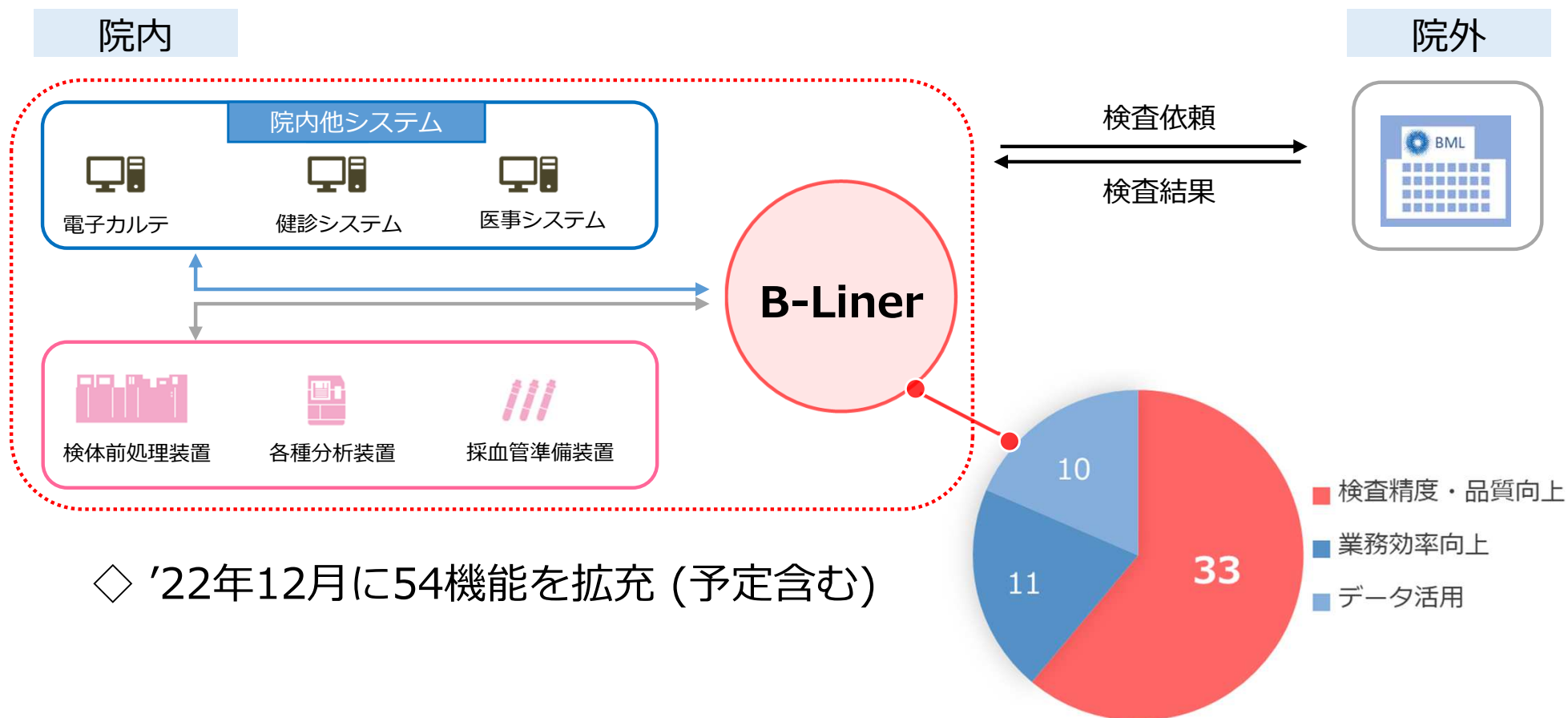
クラウド型

※ 塗りつぶしは ユーザーメリット	オンプレミス型	ブラウザ型	スマートクライアント型
サーバー設置 運用コスト	高コスト	低コスト	低コスト
カルテデータの安全性 (自然災害)	高リスク	低リスク	低リスク
カルテデータの安全性 (セキュリティ対策)	高リスク	低リスク	低リスク
処理速度	速い	速い	速い
拡張性 (他社連携)	制限なし	制限あり	制限なし
クライアント端末の 利用制限	制限あり	制限なし	制限あり*

*** '23年3月より、iPadでのブラウザ機能を追加し
利用制限を緩和**

✓ 臨床検査システム「B-Liner」

- ◇ 院内検査においては、分析装置等と連動し臨床検査部門の業務効率化を実現
- ◇ 院外検査 (当社に外注する場合)においては、依頼から報告まで一気通貫で対応が可能



- ◇ '22年12月に54機能を拡充 (予定含む)

✓ パイロット営業所でのB-Labelの導入実績・削減効果額

- ◇ 検体ラベルの貼付率は、28%~47%がB-Label化
- ◇ コスト削減効果は、現在までのところ25百万円/年と試算
- ◇ '22年10月より、順次全国展開
 - 貼付率 30%~50%を達成した場合、200百万円~350百万円/年の削減効果

('22年5月)

	年間効果額
A営業所	12.5百万円
B営業所	
C営業所	

('22年11月)

	導入率* (施設数)	検体ラベル貼付率* (本数/月)	年間削減効果額
A営業所	46.0%	47.2% (84,870/179,812本)	25百万円
B営業所	49.2%	43.5% (65,380/150,229本)	
C営業所	53.4%	45.7% (56,627/123,836本)	
D営業所	37.0%	28.9% (150,620/521,960本)	

*電子カルテ等のシステム導入施設が対象

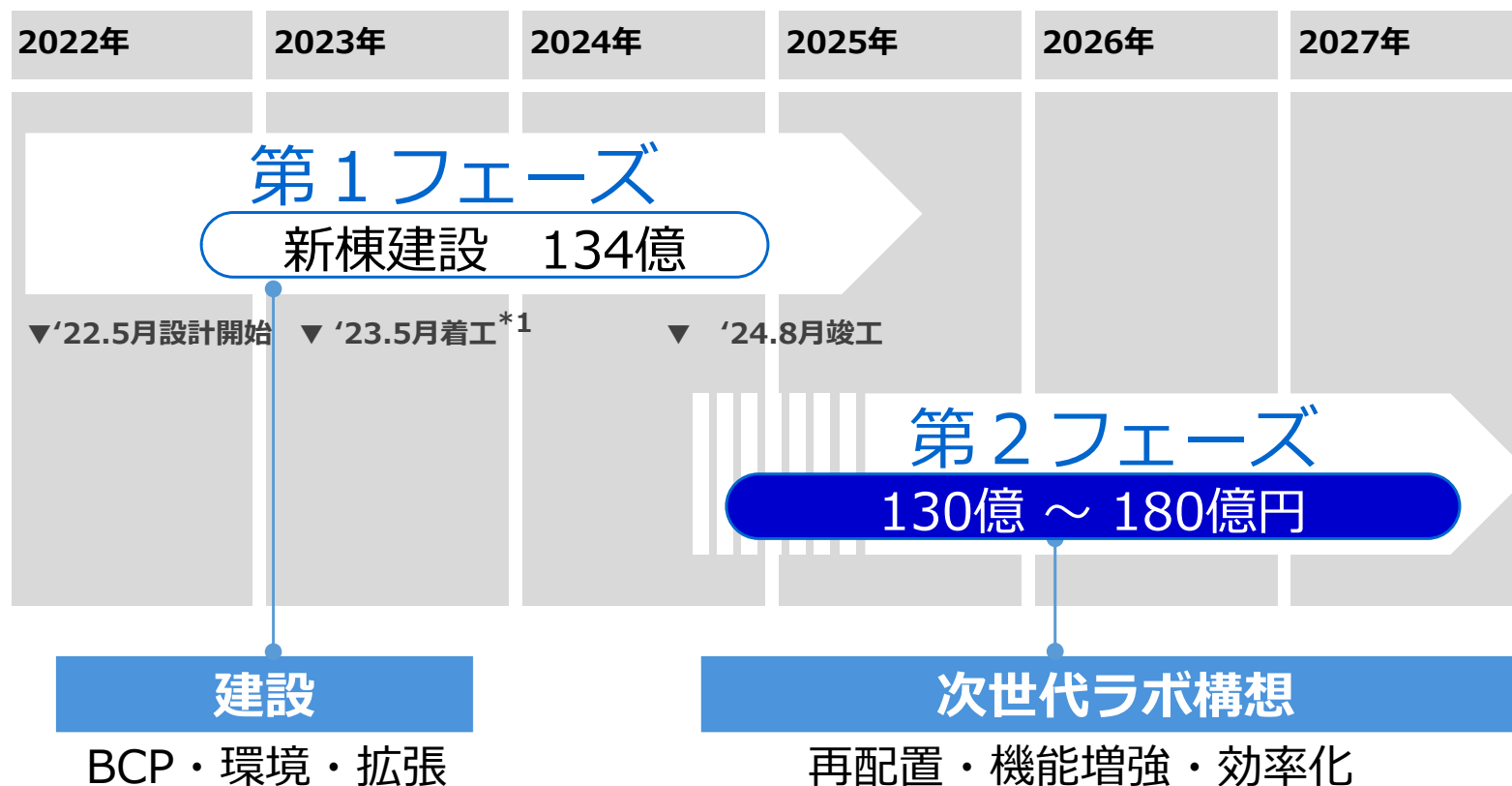
B-Labelの全社展開とQualis Cloud・B-Liner等のDX関連サービスをより強力に推進することで、5億円/年のコスト削減効果を目指す

将来への投資

- ・ BML総合研究所
- ・ BMLフード・サイエンス (新棟建設)



✓ 新棟稼働までのロードマップ



- ◇ ルーチン検査*2・ゲノム検査ともに現状の1.5倍の処理能力を確保
- ◇ 検査の品質・スピードの向上、コスト削減、省力化

*1 「2021年度期決算説明会」資料の新棟着工時期に誤植が判明しましたので訂正しております。これにより2024年8月竣工(予定)が遅れるものではありません。

*2 分注・生化学的検査・血液学的検査・免疫学的検査

BMLフード・サイエンス (新棟建設)

✓ 既存の食品検査ラボ隣地に 約18億円を投じ新棟を建設

- ◇ BCP対策 (浸水により検査継続に影響を及ぼす設備※を上層階へ移設)
- ◇ 検査処理能力を現状の 約2倍に増強
- ◇ コスト低減による価格競争力を確保

※腸内細菌ラボ、高圧受変電設備および受水槽



着工 : '23年4月 (予定)
竣工 : '24年2月 (予定)

2022年度通期の見通し 株主還元

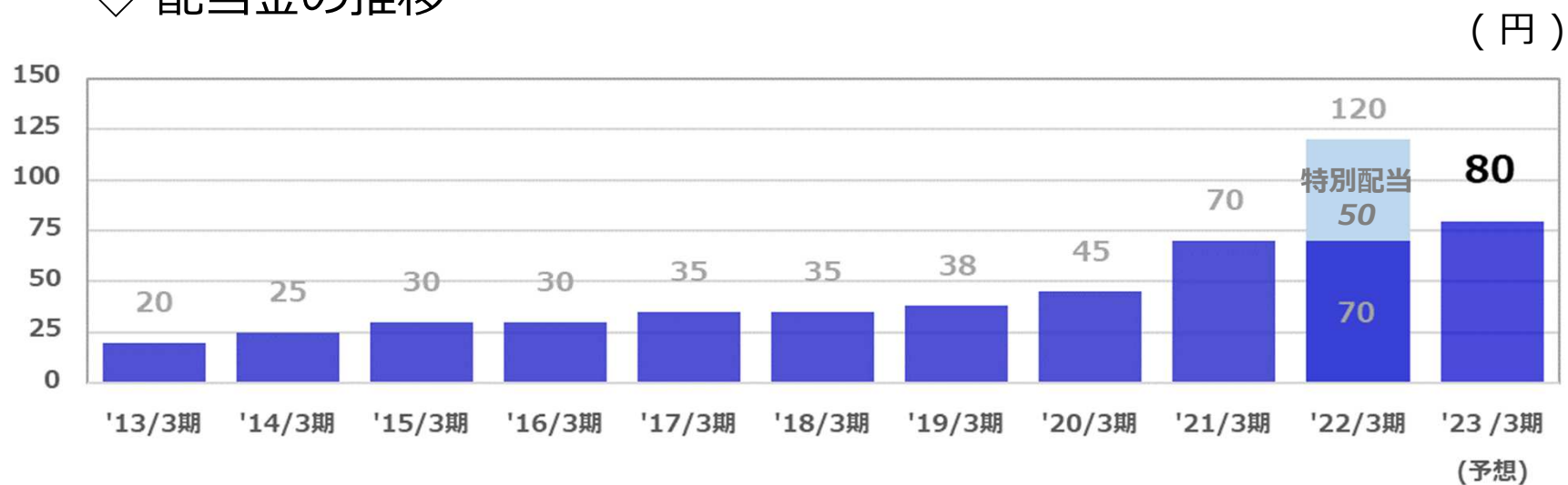
2022年度通期の見通し

	'21年度	'22年度 (11月11日修正)	増減額	増減率
売上高	186,067	154,000	-32,067	-17.2%
検査事業	179,751	147,600	-32,151	-17.9%
臨床検査	175,232	142,950	-32,282	-18.4%
食品検査事業	4,519	4,650	131	2.9%
医療情報システム	4,816	4,950	134	2.8%
その他事業	1,498	1,450	-48	-3.2%
営業利益	48,889	22,000	-26,889	-55.0%
経常利益	51,077	22,500	-28,577	-55.9%
親会社株主に帰属 する当期純利益	33,741	14,500	-19,241	-57.0%

(百万円)

配当金

◇ 配当金の推移



(注) '16年9月1日付で普通株式1株につき2株の割合をもって株式分割をしています。

(注) '16年以前は分割後の金額で表示をしています。

(注) '23年3月期は年間80円を予定しています。

ESGへの取り組み

- ・ 人的資本への投資

教育研修

◇ 新たな研修体系を構築

- 階層別研修・選抜型研修の拡充
- e-ラーニング研修の導入による研修項目数と受講回数 の充実



- 「絶えず学ぶ」風土の醸成

健康経営

◇ 健康経営の推進体制を構築

- ワーク・ライフ・バランスを推進し、多様な社員が活躍できる職場づくり
こころと身体 の健康維持・増進
自主的に健康を維持増進するための取組み支援 など

医療界に信頼され
選ばれる企業をめざす

Customer Satisfaction

(顧客満足)

Synergy

(相乗効果)

Social Responsibility

(社会的責任)



< 将来に関する記述等についてのご注意 >

本資料に記載されている将来に関する見通し、戦略、計画に関する記述等は、当社が現在入手している情報に基づく本資料作成時点での種々の前提に基づいた当社の判断であります。従ってこれらの記述・前提は、その内容の正確性を保証したり、将来の計画数値、施策の実現を確約したりするものではありません。今後、様々な要因によって記載の見通しと異なる結果を生じえるリスクを含んでいます。また、今後予告なしに変更されることがあることをご了承下さい。